# 編集後記・Editorials

魚類学雑誌
55(2): 156

魚類学雑誌55巻2号をお届けします．本論文2本と短報6本の比較的スリムな構成となりました．英文誌では手持ちの受理原稿がたくさんあり，そこから一定量の論文を印刷にまわします．しかし，和文誌では「まにあう」原稿は原則的にすべて掲載しますので，冊子が太ったり，痩せたりします．言ってみれば，在庫なしの自転車操業で，投稿状況を横目でにらみながらのスリリング（?）な編集作業になります．前号でもふれましたが，魚類学会の財政悪化にともない，本誌の電子出版への移行が議論されています．しかし，確たる方向性は打出されていません．考えてみれば，これも当然なのでしょう．会員の「意見分布」を誰一人として押さえていないのですから．本年中にもみなさまの考えをお尋ねする機会があるかもしれません．その節には本誌のありかたについて，ご意見ご要望をよろしくお願いします．

さて，悲しいお知らせがあります．本会で編集委員や評議員を長きにわたり勤められた岡村　收さんが本年6月に，名誉会員であられた石山礼蔵さんが9月に他界されました．土佐人岡村さんの「イゴッソ」には私自身も数年にわたり親しく接しました．前号の「先達に聞く」でも「イゴッソ」の一端がうかがわれると思いますが，いかがでしょう．石山さんには学部時代に「魚類学」の講義を受けました．残念ながら，どのような成績を頂戴したかは失念しましたが，ネクタイをきちんと締め，黒っぽい上着を羽織られた端正なお姿が目に浮びます．追悼の記事は56巻1号に掲載予定です．お弟子さん筋にあたる方にひととなりなどをご披露いただき，故人を偲ぶ縁（よすが）となれば幸いです．

55巻の編集にあたり，下記の方々に原稿の校閲でご尽力いただきました．記してお礼いたします（敬称略）．

藍澤正宏，赤川　泉，尼岡邦夫，遠藤広光，福井　篤，後藤理恵，林　公義，本間義治，井口恵一朗 (5)，今村　央 (3)，岩田明久，甲斐嘉晃 (2)，加納光樹，加納義彦，木村清志，木下　泉，前畑政善，松浦啓一，中井克樹，荻原清司，岡本誠，大原健一，佐々木邦夫 (3)，瀬能　宏，篠原現人 (4)，曽我部　篤，鈴木寿之，高橋鉄美，谷口順彦，鵜岡　理 (2)，矢部衛，山本敏哉，淀　太我，渡辺勝敏 (5)．　（佐々木邦夫）